

あ と が き

小学校・中学校など、他校種に先がけ幼稚園教育要領が改訂され、平成 21 年度から全面実施となりました。今回の改訂の概要として「発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実」「幼稚園生活と家庭生活の連続性を踏まえた幼稚園教育の充実」そして「子育ての支援と預かり保育の充実」が示されたことは周知のとおりです。

本園はその中でも「発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実」に基づいて教育課程を編成するという研究に平成 19 年度から取り組んでまいりました。研究のテーマを「学びをつなぐカリキュラムの編成」とし、平成 19 年度は「自己表現のあり方」に、平成 20 年度は「思考する姿に」視点をあて、実践を通して幼児らの生活する姿を探ってきました。2 年間の研究により、本園の幼児らの自己表現や思考する姿における大まかな育ちの特徴を明らかにすることができました。しかしながら、「学びをつなぐカリキュラムの編成」には至りませんでした。

そこで、本年度は昨年度までのテーマは引き継ぎ、幼児らの「協同して生活する姿を見つめて」をサブテーマに掲げました。それは、教育要領改訂の概要の一つである「発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実」の具体的な内容に「協同する経験を重ねること」があげられていること、加えて本園の幼児らの友達同士のかかわりが希薄になっている実情から、幼児らの「協同して生活する」姿を深く探っていく必要性を感じたからです。

本年度の研究で私どもは幼児の姿から様々なことを学びました。その中で最も大事にしたいことは、「協同して生活する」というと友達と同じ目的をもって一緒に活動するという構図が浮かびますが、そのためには、一人一人がしっかりとした「自分」を確立していかなければならないということです。本園がこれまでの研究で大事にしてきた「自分づくり」を育ちの中心に据え、幼児らを育ていかなければならないことを再確認した思いでした。

以上のようなこれまでの研究をもとに本年度は、本園の平成 22 年度版教育課程を編成することができました。

加えて、養護教諭の視点から食育の実践も載せてあります。食育は「健康」の領域で大切さが強調されている分野です。「家庭生活との連続性」においてもまだまだ研究を重ねていく必要があると考えています。

最後になりましたが、これまでの研究にご指導いただいた多くの先生方に厚く御礼申し上げます。今後の研究の更なるご批判ご指導をお願い申し上げます。

平成 22 年 6 月

副園長 上田ますみ